

月報	日本キリスト改革派 横浜中央教会	2016年3月20日 3月号
----	---------------------	-------------------

つながる想い

T. G

卒業式前にサクラハウスのラウワ憲子さんを学校に招いて6年生向けに講演をしてもらいました。その時の学年便りを紹介します。

「なぜ仙台に住むことにしたんですか？」

ラウワ憲子さんを、校長先生とお見送りしたときに校長先生が聞いた言葉です。ラウワさんはちょっと考えてから「やっぱり野蒜の子たちと出会ったからだと思います。」と答えました。そこにラウワさんの想いがあります。その想いに突き動かされて、ラウワさんは5年間ボランティアスタッフとして働かれてきたのです。

この世界は人の想いを通してつくられていくのだと、改めて感じました。自分を突き動かす想い、そのような想いを持っている人は幸せだと思います。どんな困難に出遭っても、挑戦し続け、いつかその困難に打ち勝つことができるでしょう。

たとえ結果がでなくても、挑戦している時が一番幸せだったと気が付く日が来ると思います。そして、そのような自分の想いは、だれかの想いとつながって、大きな力になるのです。

みなさんは卒業に向けてどんな想いをもっているのでしょうか。その想いの一端を卒業バレーポール大会では見せてもらいました。次は卒業コンサート、そして卒業式です。ぜひみなさんの想いを伝えてほしいと願っています。

想いを伝えるためには、練習が必要です。私たちの体は、なかなか思い通りに動かないものです。本番まであとわずかですが、最後まで成長する姿を楽しみにしています。歌に込められた想いに自分の想いを重ね、家族に、後輩たちに、先生方に想いを届けましょう。

ラウワ憲子さんの想い、私の想い、様々な想いを胸に子ども達は立派に卒業していきました。いつの日かイエス・キリストと再び出あえることを願っています。キリスト教学校ならではの卒業でした。

もうすぐイースター、ということで「イースターにまつわる話を」とテーマを頂きました。イースターで思い出すのは、イギリスの「ホットクロスバンズ (Hot cross buns)」です。菓子パンの一種で、レーズンなどが入っていて上に白い生地などで十字の飾りがつけられています。十字はもちろん、イエス様の受難を表し、伝統的には受難の朝に食べると言われています。英国威を踏襲しているオーストラリアでも当然作られる季節の食べ物です。



オーストラリアでは家庭科の調理実習でも作ったりするほど身近な存在でした。たいていの家ではお店で買ってきて食べるのですか、受難日の朝だけしか食べていなかったかというそんなことはなく、たしか、受難日以外にもイースターの時期は割と頻繁に食卓に上がっていた気がします。最近では日本でもパン屋で見られるのではないかと思います。クックパッドなどにもよくレシピが載っています。お店で見かけたらぜひお試しください。

さて、内容はまったく変わりますが、最近会社のグループリーダーにこんなことを聞かれました。日く、「斉藤さんは信仰心をもっているけれど、何かつらいことや悲しいことが起きたときはどんな風に考えているの?」。周りの人は私がクリスチャンであることを知っていますが、こんな風に聞かれたことは初めてでした。その人は、何か起きたときには「この経験はきっと自分を成長させるために必要な過程だったんだ」と思うように心がけているそうです。ただ、もっと若いときにはすんなり思考を切り替えることができたけど、年齢が上がるとともにだんだんと難しくなってきた、とも言っていました。キャリアが上がるにつれて問題の内容も複雑化してくるし、人の思いも昔より感じられるようになると、楽に気持ちの切り替えができなくなったそうです。

そういう意味では、私は「この経験は神様が私を鍛えるために与えた試練」と思って受け止めているので、もしかしたら他の人よりは（人によるとは思いますか）気持ちの切り替えがしやすいのかもしれませんが。もちろん悲しいことがあれば落ち込みますし、なんで?とも思いますが、同時に、聖書に出てくるたくさんのお話を思い出すことができるからです（エジプトに売られたヨセフとか、エステルとかモーセとか…）。すべては神様の摂理の中、という信仰が私を支えてくれているんだな、と、リーダーとの会話の中で気づかされました。

普段は会社で信仰心を強く意識して働いているわけではないのですが、その人は、私は感謝をもって過ごしているようだ、と言ってくれました。自分では気づかないことでしたが、意外と人は見ているようです。嬉しく思うと同時に「改めて言動に気を付けよう…（汗）」と思わされた出来事でした。この時期に気づけたことも、また、幸いだな、と思います。

大切な単語の定義

P. K

結構前から韓国の「愛の畑早朝手紙=사랑밭새벽편지」というメールを毎朝受信して読んでいますが、この手紙は現社会の風潮を冷ややかな目で風刺的に描写した物が多いのが特徴で、ある時のメールの題名が“大切な単語の定義”でその内容が結構面白く印象深かったので、日本語に訳してみました。

私	離別出来ない相手
私達	寂しさの反対
母	この世で一番大きい傘を持っている人
父	最後までパパと呼びたかった人
家族	よくのぞいて見ると一人
愛	神が創ってくれただけで、使用法を教えてくれなかった事
幸福	そんなに悪くは無いと言った瞬間
信じる	その気になれば、必然的に芽生えてくる事
挑戦	全てのチャンピオンたちが昨日までやった事
失敗	痛み49% チャンス51%
お金	好きにはなるけど愛する事は出来ない物
自由	欲求を投げ捨てる手に残る物
笑い	1秒の間に人生を変えてくれる方法
道	初めは森、山であった所
もう一度	誰にでも与えられる人生の繰り返しマーク
今日	使わなくても自然に減って行く時間

うん?!と思う事柄も所どころ有りますが、角度を変えて考えるとただ笑える部分が結構あったので紹介してみました。